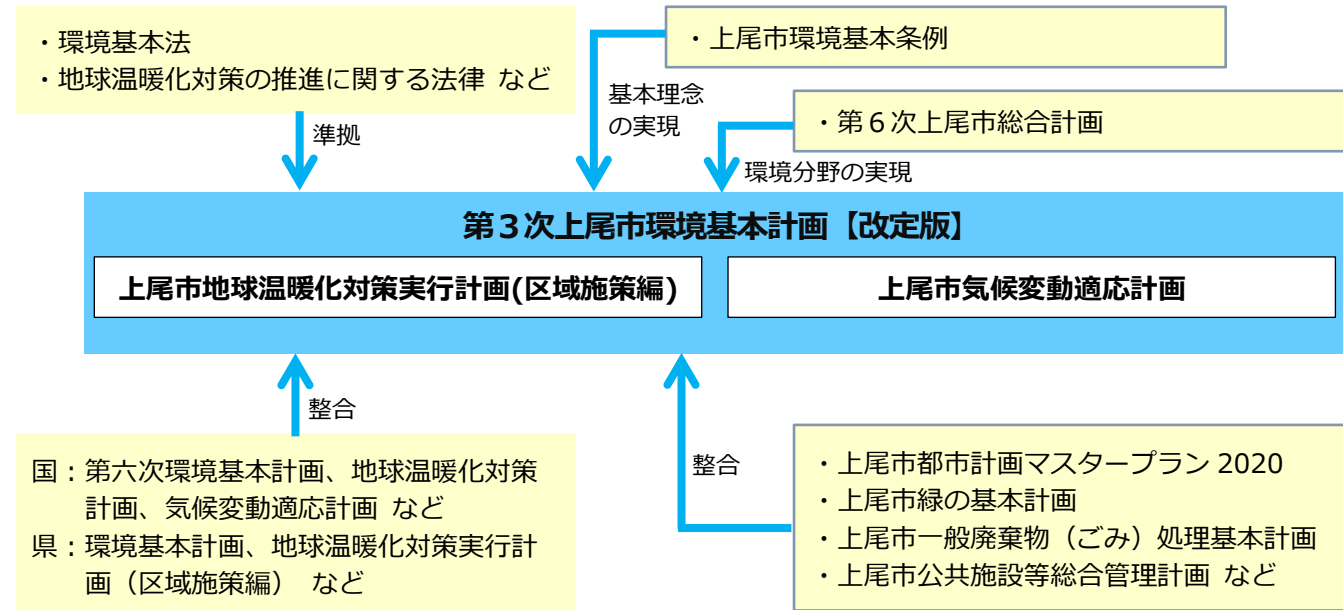


第 3 次上尾市環境基本計画【改定版】に係る基本的な考え方について（案）

1 計画の基本的事項

【位置付け】

- ・上尾市環境基本条例第 8 条に基づき策定するもので、環境に関する市の施策の方向性を示すとともに、市民・事業者が環境保全に取り組むための指針を明示するもの。
- ・上尾市環境基本条例の基本理念と第 6 次上尾市総合計画に示す本市の将来像を環境面から実現するための計画であり、環境行政の最も基礎となる計画。



【計画期間、目標年次】

- ・令和 8（2026）年度から令和 12（2030）年度までの 5 年間。

【策定にあたっての前提条件】

- ・国や埼玉県が示す新たな気候変動対策や資源循環対策などの政策への対応、社会環境の変化に対応した計画とする。
- ・現行計画の進捗状況を評価し、継続すべき施策・事業は引き続き継続し、見直し・改善が必要な施策・事業については再検討する。

【主な改定ポイント】

- ・「**地域気候変動適応計画**」の包含：気候変動の影響に対応するため、本計画は気候変動適応法第 12 条に基づく「地域気候変動適応計画」を包含。
- ・**望ましい環境像の見直し検討**：現行計画の望ましい環境像を踏襲しつつ、ゼロカーボンシティの実現など 2050 年をイメージした望ましい環境像の検討。
- ・**施策体系・指標の見直し**：国の第 6 次環境基本計画における重点施策の区分を参考に、現行の 6 つの環境分野から「自然環境」「都市・生活環境」「資源循環」「気候変動対策」「人づくり・環境基盤の整備」の 5 つの分野区分へと再編。
- ・**市民・事業者の取組例の提示**：市民・事業者の行動の目安となるよう、それぞれの主体における分野別の取組例を提示。

2 主な社会状況の変化

＜世界の動向＞

- ・「**グラスゴー気候合意**」（令和 3（2021）年 11 月）：1.5℃目標を目指すこと、世界の二酸化炭素の排出量を 2030 年までに 2010 年比で 45%削減し、今世紀半ば頃には実質ゼロにすることなどを合意した。
- ・「**昆明・モントリオール生物多様性枠組**」（令和 4（2022）年 12 月）：2050 年ビジョンの「自然と共生する世界」の達成に向けた G 7 の合意で、2030 年までに地球の陸域と海域の 30%以上を自然環境エリアとして保全する「30 by 30 目標」、ビジネスにおける生物多様性の主流化等の目標が掲げられる。

＜国の動向＞

- ・「**第六次環境基本計画**」（2024（令和 6）年 4 月）：将来ビジョンである「循環共生型社会」を環境の質をあげることによって成長・発展できる文明と定義し、それにより将来にわたる「ウェルビーイング／高い生活の質」と「新たな成長」の実現を目指すことを明記。
- ・「**2050 年カーボンニュートラル宣言**」（令和 2（2020）年 10 月）：『2050 年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにし、脱炭素社会の実現を目指す』ことを宣言した。
- ・「**地球温暖化対策の推進に関する法律**」の改正（令和 6（2024）年 3 月）、「**地球温暖化対策計画**」（令和 7（2025）年 2 月）：温室効果ガスの削減目標「2035 年度 60%削減」「2040 年度 73%削減」（いずれも 2013 年度比）を設定した。
- ・「**気候変動適応法**」（令和 5（2023）年 4 月）の改正、「**気候変動適応計画**」（令和 5（2023）年 5 月一部変更）：地球温暖化対策計画（緩和策）とあわせて、気候変動に対する適応策を推進し、令和 5 年の改正では熱中症対策の強化が掲げられた。
- ・「**第五次循環型社会形成推進基本計画**」（令和 6（2024）年 8 月）：循環経済への移行を国家戦略として位置づけ、地域ごとに循環システムを構築して地方創生を推進する等社会課題の同時解決も目指している。
- ・「**資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律**」（令和 6（2024）年 5 月）の制定。
- ・「**プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律**」（令和 3（2021）年 6 月）、「**食品ロスの削減の推進に関する法律**」（令和元（2019）年 5 月）などを制定した。
- ・「**生物多様性国家戦略 2023-2030**」（令和 5（2023）年 3 月）：2030 年の自然再興（ネイチャーポジティブ）の実現を目指し、生物多様性・自然資本（＝地球の持続可能性の土台・人間の安全保障の根幹）を守り活用するための戦略と行動計画を明示した。

＜埼玉県の動向＞

- ・「**埼玉県環境基本計画**」（2022 年 4 月）：21 世紀半ばを展望した長期的な目標として「脱炭素社会、循環型社会づくり」「自然共生社会づくり」「持続可能な社会構築のための産業・地域・人づくり」を設定。
- ・「**埼玉県地球温暖化対策実行計画（第 2 期）改正版**」（2023 年 3 月）：2050 年の目指すべき将来像として「カーボンニュートラルが実現し、気候変動に適応した持続可能な埼玉」を掲げ、2030 年度の温室効果ガス削減目標を 2013 年度比 46%削減に引き上げ。
- ・「**第 9 次埼玉県廃棄物処理基本計画（埼玉県食品ロス削減推進計画）**」（2021 年 3 月）：重点的に取り組む課題として「食品ロスの削減」、「プラスチック資源の循環的利用の推進」などを記載。
- ・「**埼玉県生物多様性保全戦略**」（2024 年 3 月）：目指す将来像として「ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」が掲げられ、2 つの横断的・基盤的戦略（生態系の健全性の回復と基盤整備）と 4 つの生態系エリア別戦略（森林、里地里山、水域、都市）を記載。

第3次上尾市環境基本計画【改定版】に係る基本的な考え方について（案）

3 現行計画の進捗状況の評価

- ・ 現行計画の進捗状況について、指標による実施成果及びアンケート結果から把握した満足度・向上度による定量的な評価に加え、昨今の社会的な動向等の定性的な評価を踏まえて、総合評価を実施。
- ・ 第3次上尾市環境基本計画【改定版】における主な見直し事項・検討課題は以下のとおり。

環境分野など	施策の進捗度	主な見直し事項・検討課題
自然環境分野	・ 施策の進捗度は概ね良好。 ・ 計画指標である「自然環境の住民満足度」は基準値から変化していない。	・ 「生物多様性増進活動促進法」など民有地の緑地等の確保のための法整備や制度が創設されることから、これらの活用も含めた新たな対策の検討。 ・ 市民との協働による自然再生や生物多様性の保全等の取組の継続と幅広い世代への周知。
都市・生活環境分野	・ 施策の進捗度は〈11〉環境美化の推進を除き概ね良好。 ・ 計画指標である「都市・生活環境の住民満足度」は基準値より低下。	・ より良好な水質状態となるよう、これまでの取組を継続して実施。 ・ 地産地消の取組の強化。 ・ クリーンあげお運動などのポイ捨て対策を更に徹底していくとともに、行動経済学（ナッジ）の考え方を利用したごみ箱への誘導など、ごみを捨てない環境づくりを検討。
資源循環分野	・ 施策の進捗度は 50%。 ・ 計画指標である「1 人 1 日あたりのごみ排出量（家庭部門）」は目標値に近づいているが、「ごみのリサイクル率」は基準値より低下。	・ さらなるごみの減量のためにルールに基づく分別の徹底 ・ 循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行。
省エネルギー、再生可能エネルギー、地球温暖化対策分野	・ 施策の進捗度は〈15〉省エネルギー・再生可能エネルギーの推進は良好であるが、〈16〉適応策については全て達成できていない。 ・ 計画指標である「市内の CO ₂ 排出量」や「再エネ導入量」は目標値に近づいている。	・ 断熱改修などの省エネルギーの取組について、国や県などの取組と連動し、更なる普及啓発策が必要。 ・ 太陽光発電システムの設置について、新築・既築など住宅の状況に応じた情報発信や支援策が必要。 ・ 将来想定される気候変動の影響を踏まえたうえで、適応策を強化。
環境づくり分野	・ 施策の進捗度は概ね良好。 ・ 計画指標である『「環境活動に参加したい」と思う人の割合』は中間評価の目標値を達成。	・ 多くの人が目にでき、知ることができる環境の情報発信の方法の検討。 ・ 環境問題に関心はありつつも知らない・参加できない層が活動に参加できるような機会の提供や工夫。
計画指標、業務指標		・ 計画指標については現行計画を踏襲。 ・ 業務指標については、指標管理部署と協議・調整のうえ一部見直しを予定。

4 望ましい環境像の見直し（案）

■ 現行計画

【望ましい環境像】

- 自然とのふれあいや良好な景観を大切にしている
- 安全で安心して暮らせるまちを形成している
- 脱炭素かつ資源循環型社会の形成に市民・事業者・行政一体で取り組んでいる
- 持続可能なまち【あげお】を次世代へとつないでいる



■ 第3次上尾市環境基本計画【改定版】

【望ましい環境像（案）】

ウェルビーイング、カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーなどの将来像がイメージできる新たなキャッチフレーズを設定（市民ワークショップで意見聴取予定）

5 施策の方向性の再編（案）

- ・ 現行の6つの環境分野から5つの環境分野への再編にあわせて、望ましい環境像の実現に向けたマイルストーンとなる2030年の本市の将来イメージを環境分野毎に設定。



第3次上尾市環境基本計画【改定版】に係る基本的な考え方について（案）

6 第3次上尾市環境基本計画【改定版】の施策体系（案）

- ・ 5つの環境分野への再編及び2030年の将来イメージの設定にあわせて、環境目標及び個別目標を再構成。
- ・ 計画指標は成果指標として位置づけ、一部指標を見直し予定。

【現行計画の体系】

望ましい環境像	環境分野	計画指標	環境目標	施策（実行施策）
○自然とのふれあいや良好な景観を大切にしている ○安全で安心して暮らせるまちを形成している ○脱炭素かつ資源循環型社会の形成に市民・事業者・行政一体で取り組んでいる ○持続可能なまち【あけお】を次世代へとつないでいる	自然環境	・自然環境の住民満足度	自然との共生	〈1〉生物多様性の保全 〈2〉自然とのふれあいの促進 〈3〉緑地の保全・創出 〈4〉水辺環境の保全・整備
	都市・生活環境	・都市・生活環境の住民満足度	公害の防止	〈5〉大気汚染の防止 〈6〉水質汚濁の防止 〈7〉騒音・振動の防止 〈8〉その他の公害の防止
				〈9〉公園の整備 〈10〉農地の保全・活用 〈11〉環境美化の推進 〈12〉景観の保全・整備
			快適環境の構築	〈13〉ごみの発生抑制（Reduce）の推進 〈14〉ごみの再利用・再資源化（Reuse、Recycle）の推進
				〈15〉省エネルギー・再生可能エネルギーの推進 〈16〉地球温暖化への適応策の推進
	資源循環	・1人1日当たりのごみ排出量（家庭部門） ・ごみのリサイクル率	循環型社会の構築	
	省エネ・再エネ	・市内のCO ₂ 排出量 ・人口1人当たりのCO ₂ 排出量 ・再生可能エネルギー導入容量	脱炭素社会の構築	
	地球温暖化対策			
	環境づくり	・「環境活動に参加したい」と思う人の割合	環境活動の活発化	〈17〉環境教育・環境学習の推進 〈18〉協働による環境活動の推進

【改定版の体系（案）】				
望ましい環境像	環境目標	成果指標	個別目標	施策（実行施策）
調整中	〈旧自然環境分野〉 1. 緑と水が日々の暮らしに寄りそうまち	・緑地面積 ・都市公園面積	〈1〉生物多様性の保全	① 動植物の生息・生育環境の保全 ② 自然とのふれあいの促進
			〈2〉緑・水辺の保全	③ 緑地の保全 ④ 農地の保全・活用 ⑤ 公園の整備、身近な緑の創出 ⑥ 水辺環境の保全・整備
				⑦ 公害防止対策の推進
				⑧ まちの美化の推進
				⑨ ごみの発生抑制（Reduce）の推進 ⑩ ごみの再利用・再資源化（Reuse、Recycle）の推進
				⑪ 家庭・事業所の省エネルギー化の促進 ⑫ 公共施設の省エネルギー化の推進
	〈旧都市・生活環境分野〉 2. 健やかで安全、快適に暮らせるまち	・大気（光化学オキシダントを除く）、水質、道路騒音・振動、ダイオキシン類の環境基準適合率 ・年間公害苦情件数	〈3〉公害の防止 〈4〉快適環境の構築	
	〈旧資源循環分野〉 3. 資源循環の暮らしを営むまち	・1人1日当たりのごみ排出量（家庭部門） ・ごみのリサイクル率	〈5〉循環型社会の構築	
	〈旧省エネ・再エネ、地球温暖化対策分野〉 4. 脱炭素な暮らしを営むまち ・上尾市地球温暖化対策実行計画（区域施策編） ・上尾市気候変動適応計画	・温室効果ガス削減目標 ・人口1人当たりのCO ₂ 排出量 ・再生可能エネルギー導入目標	〈6〉省エネルギー化の推進 〈7〉再生可能エネルギー利用の促進	⑬ 再生可能エネルギー設備の導入拡大 ⑭ 再生可能エネルギーの利用の促進
			〈8〉脱炭素型まちづくりの推進 〈9〉気候変動への適応	⑮ 建築物の省エネルギー化の促進 ⑯ 移動手段の脱炭素化の促進 ⑰ スマートコミュニティの促進 ⑱ 気候変動適応策の推進
			〈10〉環境行動の活発化	⑲ 環境教育・環境学習の推進 ⑳ 協働による環境行動の推進
	〈旧環境づくり分野〉 5. みんなが環境行動を実践するまち	・「環境活動に参加したい」と思う人の割合		

※太枠内は、移動もしくは再編した項目